業界の理解と専門知識を備えたエアラインパイロットへの道のり

業界トップクラスのセオリーを説く、渡辺先生。
JAL（日本航空株式会社）の社員、JEX（株式会社ジャルエクスプレス）の社長などを務めたという経歴をもつ渡辺先生。その経験を生かして、エアラインパイロットの養成の教育を行なっています。今回はその渡辺先生の教育の姿勢やセオリーに迫ります。

目標を明確に導くため 業界の今を知る

航空産業は国家や社会の重要なインフラであり、経済交流・社会文化交流の橋渡しをする極めて大事な産業と位置づけられています。特に資源の乏しい日本においては、外国との円滑な交流が21世紀を生き残っていくために必須であると考えられます。この広範な交流を支える航空全般に関連する基礎知識の習得、航空業界の抱える課題への理解、日々の活動など周辺業務のすべてを理解することで将来の目標を明確にします。

安全第一の心構え 機長になるために必要な要素

航空会社は、パイロット、整備士、CA、管理スタッフ、運営スタッフなど多くの人間が関わりその全員で安全を確保し運航運営する組織です。本学では、多数の元エアラインパイロットの機長が教官として指導をしています。私は、元航空会社社長としてパイロットの採用面接も行なっておりましたので、どんな人材がパイロットとして必要とされるかを明確に理解しています。その視点でエアラインパイロットに必要な知識の指導をしています。

工学部 宇宙航空システム工学科
航空操縦学専攻
渡辺　武憲 教授

【バロンG58受領セレモニー】

6月17日、復旧の"キタイ（機体＆期待）"である双発機バロンG58が崇城大学へ到着しました。今回の熊本地震で空港に隣接する本学空港キャンパスは、震源地に近いこともあり大きな被害を受けました。しかし、空港キャンパス内の無事かつ安全であった格納庫に教育機能を移転し、復旧を行いながら、パイロットの訓練を行なっていました。この空港キャンパスでは、"工学部宇宙航空システム工学科"のパイロットを目指す"航空操縦学専攻"と整備士を目指す"航空整備学専攻"が訓練を行なっております。現在、全員が大学に戻り元気に訓練を再開しています。写真は、空港キャンパスの学生達にもっと元気を出してもらおうと、空港キャンパスで、新・訓練機の到着のセレモニーが開催された時の様子です。
※このセレモニーは渡辺先生が発案しました。

セレモニーの動画はコチラから